

展覧会情報

伊能忠敬と地域の測量家たち

会場 射水市新湊博物館
電話0766-83-0800

期間 4月23日(金)～6月20日(日)

じっくり地図をみる -世界地図から那須野が原まで-

会場 那須野が原博物館
電話0287-36-0949

期間 4月24日(土)～6月13日(日)

水とともに生きる—清流がつなぐ未来の海づくり

会場 岐阜県図書館
電話058-275-5111

期間 4月23日(金)～6月13日(日)

くらしと測量・地図

会場 新宿駅西口広場イベントコーナー
電話03-5213-2057(関東地方測量部)

期間 6月2日(水)～6月4日(金)

平城京遷都1300年 地図と写真でたどる 風土記の時代

会場 地図と測量の科学館
電話029-864-1872

期間 4月27日(火)～7月4日(日)

大切なお知らせ

メールサーバ移転に伴い、(財)地図情報センターのメールアドレスが変更になりました(再掲)。

新アドレスは chizujoho@coral.bforth.com です。

chizujoho@gmail.comも利用できます。

なお、ホームページURLの変更はありません。

URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/icic/>

mini地図NEWS

〈「イノペディア」HP開設〉

江戸時代の測量家、伊能忠敬がつくった各地の詳細な地図(伊能図)や資料、展示会などの話題を紹介するホームページの「イノペディア」がオープンした。情報を見るだけでなく、HPづくりに参加できるのが特色だ。URLは<http://www.inopedia.jp/>(共同通信)

〈=平城遷都1300年記念= 5万分1集成図「奈良」を作成〉

国土地理院では、政府が取り組んでいる「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の推進のため、「平城遷都

1300年祭」を推進している奈良県等の関係機関の協力も得て、5万分1集成図「奈良」を作成しました。集成図は、文化・教育・観光など幅広い分野での活用が図れるように、平城京当時の町並みと現在の町並みの比較や、奈良盆地周辺の地形の変遷など、歴史的資料としても利用できる内容となっています。4月1日発売、1枚800円。(国土地理院)

地図に関する最新のニュースは当センターホームページでも随時更新しています。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/icic/>もぜひご覧下さい。

巡検開催のご案内

■ 平成22年巡検予定

平成22年度の巡検予定をご案内します。

○秋のセミナー

秋(10月頃)には建設中の「東京スカイツリーと迅速図(仮称)」と題し、スカイツリーの建つ業平橋・押上周辺巡検と、公共の会場を使つての迅速測図のセミナーを開催します。あまり知られていない迅速測図について当財団理事、井口悦男先生に解説いただく予定です。

○冬の巡検

冬の巡検は「古河」、「岩槻」等を検討中です。

古河市は日光街道の宿場町。史跡・寺院や博物館などが点在しており、洋学の鷹見泉石を中心とした歴史博物館や篆刻美術館など見所の多い地域です。古河市は平成6年11月「渡良瀬遊水池巡検」でも見学しましたが、今回は市内を中心に検討しています。

さいたま市岩槻区は人形のまちとして有名ですが、城下町として、また日光街道の宿場町として栄えました。

セミナー、巡検とも決まり次第本紙でお知らせします。

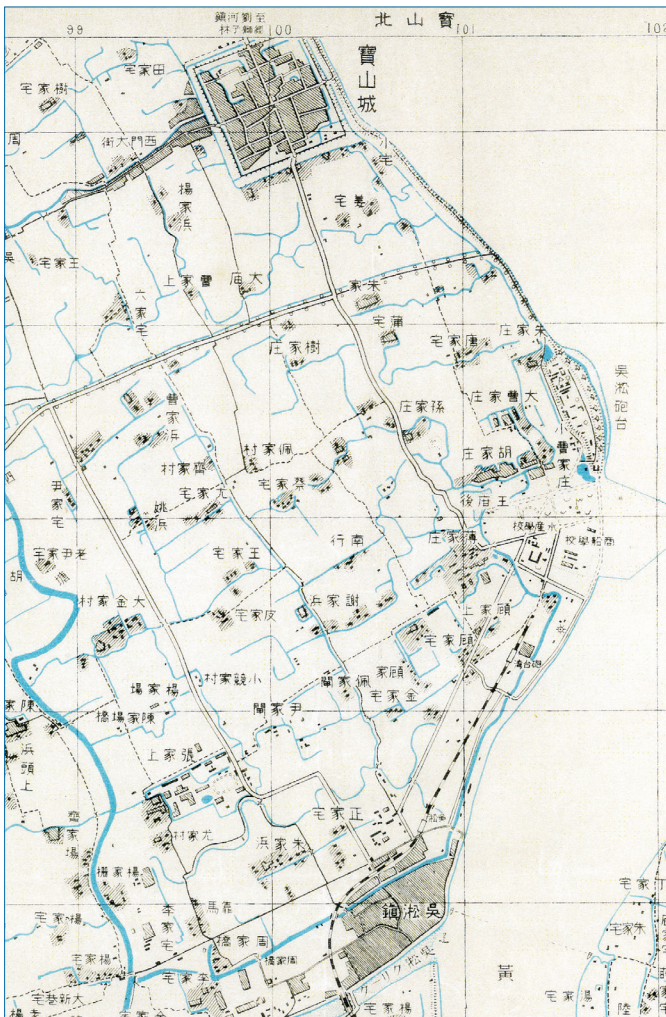
地図絡み

第41回 上海界限 / かいわい ウースン バオシャン ヤンチョウ 吳淞・宝山・揚州

帝京大学理事 井口悦男

長江河口に近い上海は、東北(旧満州)を別にすると、中共建国後も永らく唯一の先進工業地域であった故か、気のきいた中国製品に接し生産地を聞くと、定まって「上海製」と誇らしげに中国人から戻ってきた。

しかし、その上海は、まだわたくしには映像上の世界に止まる。長江支流「黄浦江」西岸「バンド」に並ぶ、19世紀以来の重厚な石造欧風ビル群と、対照的な、その対岸「浦東」地区に雨後の筍のように林立する現在中国の奇抜なデザインを競う高層ビル群の姿で代表される。このような現代映像に加え、過去の上海映像として、李香蘭と長谷川一夫主演の「支那の夜」の「バンド」風景とが重なる。さらに、映画で「重慶まで、クリークだけで、長江を通らず、行ける」のセリフから、無限広大な中国の人工水路網の存在を教えられた。



昭和7年測図 2万5千分1「宝山」上海派遣軍司令部 陸地測量部 参謀本部



明治20年1月4日「清國上海圖」改進黨新聞附録「東半球輿地全圖」所収「各國都府略圖」のうち三益社石版部印行 細井松夫彫刻

この時代、黄浦江は「吳淞河」と呼ばれていたとも。現在黄浦江支流に「蘇州河」があるように。

その上で、上海近郊地名として印象深いのは「吳淞」である。黄浦江が長江に合流する西岸にあり、長江を遡航する外国艦船を牽制するために、清末に砲台が置かれた。さらに注目されるのは、日本より少々早く、中国最初の鉄道が、確かイギリス資本で、黄浦江沿いに左岸を、上海～吳淞間で建設されていることである。残念ながら、排外運動で爆破されてしまった。

この街のすぐ北の長江右岸に「宝山鎮」がある。日本の八幡製鉄の技術援助による、中国最新、最大の製鉄所がここで稼働している。この建設と日本人孤児とをからませた、山崎豊子の「大地の子」の放映で、歴史的「吳淞」より現代性の高い「宝山」のほうが、上海界限で知られる場所であろう。

長江を、南京近くまでに遡上すると、その左岸側少し北に入って、大運河沿いに「揚州」がある。9世紀遣唐使とともに、ここに上陸した円仁(慈覚大師、天台座主三世)を思い出す場所である。『入唐求法巡礼行記』を残しているが、短期留学僧のため、遣唐使一行と長安行を当初果せず、揚州の寺で修行し、翌年帰国となるが、その時の漂流で、山東省五台山を經由し長安入りを果たした。しかし仏教弾圧に逢い、新羅商船による太宰府帰着と苦難を重ねる。

印象深いといえば、先の日中戦争緒戦の折、クリーク地域の上海近郊の戦闘で、現市域内「大場鎮」での「爆弾三勇士」に、わたくしの小学校同級生で、堀ひとつ先の、召集されたお父さんが、長い火薬筒をかかえて突入したひとりであったことである。(10.05.01)